

行政視察報告書

令和 6 年 11 月 11 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会議員 伊波 良明

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1, 名 称	総務委員会 行政視察
2, 期 間	令和 6 年 10 月 29 日 (火) ~ 令和 6 年 10 月 31 日 (木)
3, 視 察 先	①宮城県 仙台市 (震災遺構仙台市立荒浜小学校) ②宮城県 塩竈市 (塩竈市津波防災センター)
4, 調 査 内 容	①防災、減災対策について ②防災、減災対策について
5, 参 加 者	(総務委員会) 委員長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事務局 森根 元気
6, 視察先対応者	①仙台市まちづくり政策局 防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計 2 人 ②塩竈市議会議員、塩釜市議会事務局職員 (2 人) 塩釜市危機管理課職員 (1 人) 計 4 人
7, 概要及び所見	東日本大震災 (東北地方太平洋沖地震) は 2011 年 3 月 11 日 (金) 14 時 46 分に発生したマグニチュード 9.0、最大震度 6 強の巨大地震である。震源は三陸沖 (牡鹿半島の東南東約 130 km、震源の深さは 24 km) で、東日本の太平洋沿岸 500 km にも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受け、12 都道県で死者 15,900 人、6 県で行方不明者 2,520 人 (2024 年 3 月 8 日現在) という未曾有の大震災でした。現在、被災地では被災の実情や教訓を伝えていくための施設が多く整備されていることから、防災、減災対策を学ぶだけでなく、被災直後の写真等により津波の威力や脅威を肌で感じ知見を深めることも大きな意義があると思われる。 ① 仙台市立荒浜小学校は海岸から 700 メートルの位置にあり、荒浜地区は海岸線に沿うように集落がある。震災当時は 800 世帯 2,200 人が暮らし、児童 91 人が通っていたと

のことである。地震発生直後には児童や教職員、住民ら 320 人が耐震化構造 4 階建ての荒浜小学校に避難し、地震発生から 70 分後には高さ 9m の津波が沿岸部に到着した。学校には高さ 4,6m (2 階廊下 50 cm 高) のどす黒い津波が押し寄せるなか、屋上などに逃れ寒さをしのぎながら、翌日 18 時 30 分までには全員が消防ヘリで救出された。

一方で荒浜地区住民のうち 190 人を超える犠牲者がでた。以前より荒浜地区では津波高さ 1m を想定した避難訓練を実施していたらしいが、消防隊員が 6m の津波が来るからと避難を呼びかけていたとのことだが、なぜ避難しなかったのか悔やまれる。学校では受け入れる余地があったと思うと切ない気持ちになる。何のための訓練だったのか自問自答する。訓練の受け止め方に個人差があったのかどうか？避難経路の渋滞や交通障害があったのか？そのような惨状から津波による犠牲者を出さないため、また、津波の脅威や教訓を後世に伝えるための施設として、校舎を震災遺構として公開しているとのことである。校舎の被害状況や被災直後のリアルな写真や映像など、津波の威力や脅威を深く心に感じる大変貴重な行政視察となりました。

防災対策として、避難訓練は大事なことだが訓練の工夫を考え、どのような行動をとればいいのか、日ごろからの積み重ねと備えが災害を少なくするものと考えます。津波の大きさに関わらず一番高いところに逃げることや、家族防災会議をもち避難場所などを決めておくことが大事とのことでした。

② 塩釜市は仙台市と日本三景で知られる松島町との中間に位置しているみなとまちである。出入りの多い海岸線と 200 を超える島々からなる風光明媚な松島湾を形成している。津波の高さは塩釜本土では 1,5～4,8m で約 18% が浸水した。離島の浦戸地区では 8,0 m を超え全島で約 60% が浸水した。また、亡くなった市民 65 名のうち市域内が 17 名で、離島が 48 名とのこと。建物被害は全壊 1,017 棟、半壊 4,548 棟、一部損壊 7,768 棟、火災は 3 件発生したとのことである。塩釜市津波防災センターでは、被災地で生き残った人々の発災後の被害状況や避難者数、水道や食料、ガスや電気などのライフラインの状況や、寒さに震えながら一時的な「生命の危機」にさらされ、自分や家族の命を守るだけで精一杯の日々を過ごしたことなどをタペストリーに記載し、人々が何を求め、状況がどう変化したのかを日ごとに記録・展示していたことは被災者の気持ちが手に取るように伝わった。また、塩釜市で撮影された様々な津波の映像をみて、あらためて災害の悲惨さを目の当たりに見るようで心が痛んだ。防災・減災対策としては、地域の防災力を高めること、一人一人が行動できるよう訓練すること、停電を想定した夜間訓練も必要。そして塩釜市でも家族防災会議が大事とのことでした。

行政の対策としては、職員の参集時の注意点として無理な参集は控え、直ちに身の安全を確保すること。また、避難所の開設には班長 1 名と職員 4 名を配備するなど、危機管理マニュアルを徹底する取り組みが必要とのことでした。

災害を防ぐためには、一人一人が災害に対する心構えをもつことは当然のことだが、それがなによりも大事なことであること。「まさか」ではなく「いつか」は起きるものという

認識を持ち、家庭の防災対策に取り組むことが望ましい。

今後、起こる可能性として南海トラフ巨大地震が想定されるが、消防隊や警察、自衛隊による対応には限界がある。対応能力をどのように振り分けるか役割分担を整理する必要があると考える。「共助」・「自助」の観点もさることながら、自治体や県、国、あるいは米軍など全国家的な災害対応体制が求められる。とは言えまずは、自治会の自主防災組織をはじめとした初動対応の教育や避難訓練のあり方など、さらなる取り組みが必要だという思いを強くした行政視察でした。

以上

行政視察報告書

令和6年11月6日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 國場 正剛

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ① 震災遺構仙台市立荒浜小学校視察 校舎外周から、1階、2階と見学し、2011年3月11日に発生した東日本大震災において、児童や教職員、住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた状況、校舎の被害状況や、被災直後の写真などから、津波の脅威を知り、感じることができた。 4階から屋上にかけては、荒浜小学校における、地震発生から避難、津波の襲来、そして救助されるまでの経過を写真や映像で振り返るとともに、災害への備えについて学ぶことができた。 屋上では、荒浜地区全体を見渡ししながら、被災前後の風景を比較することができた。被災の数日前に震度5程度の地震があったことで、体育館にあった備蓄品を校舎3階に事前に移してあった事が後に、功を奏した。（学校長判断）又、日ごろから地域住民と避難訓練などを行っていることが、災害への意識を高めることに繋がっていることを感じました。 このような取り組みはうるま市においても積極的に多くの避難訓練の機会を設ける事が災害に対する意識の向上に繋がるのではないかと。

・津波が到達する直前まで、住民を誘導していた消防団員が命を落とされたことを聞き、同じ消防団員として、心痛した。

② 塩竈市津波防災センター視察 施設のコンセプト

1、津波発生時の一時避難場所・浦戸復旧復興の前線拠点となり、津波発生時は、学校等の指定避難場所まで避難することが困難な市民及び来街者をマリゲート塩釜と合わせて収容する一時避難場所として利用し、津波発生後は浦戸地区の復旧復興の拠点として利用する。

2、塩竈市営汽船決行時の一時待機場所として、台風や濃霧等で塩竈市営汽船が運休となった時は、帰島できなくなった浦戸住民が待機できる場所として提供する。

3、震災記録の伝承・防災知識の普及の為、復興の歩みを将来に向けて伝承し、市民の皆様が震災を語り継ぐ場として利用し、展示スペースは無料で見学できる。

以上のコンセプトを持って運営しているとのこと。

うるま市においても、島しょ地域を抱えている共通の点からこのような施設の建設が、急務であることを感じた。

行政視察報告書

令和 6 年 11 月 19 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 池宮城 善伸

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 令和6年 10月30日（水）①【震災遺構仙台市荒浜小学校視察】 防災・減災の観点から、津波の被害を受けた現 地を視察。東日本大震災で校舎の2階部分まで 津波が押し寄せ、校舎に避難した児童や住民 は救助されたものの、地区周辺では、200名が 犠牲になった。改めて災害対応の難しさを実感 しました。また津波は想像以上に力が強く津波 の威力と速さは想像以上でした。いつ災害がき ても、市民のためにいち早く対応できるよう事 前に予防対策の必要性を強く感じました。





震災前とあとの地域の様子がどのように変わったのかを説明を受け、一瞬で一つの街がなくなったことには、言葉にできないほど心が痛みました。しっかりと震災の現実を目と心に焼き付け、うるま市においても、できることを進めていきたいと感じました。

令和6年 10月30日（水）②【塩竈市防災センター視察】



東日本大震災の記録を展示している防災センターを視察し、様々な映像やパネルなどを見学した震災の際の記録と記憶を後世の伝える場所としてこのようなセンターが設置されていると思う。映像が凄くリアルでもの凄く伝わってきた。うるま市は沿岸が広い範囲なので、危機意識や防災意識を高めなければならないと感じた。

行政視察報告書

令和6年11月20日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊波 洋

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
(1) 震災遺構仙台市立荒浜小学校 2011年(平成26年)3月11日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸500kmにも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けました。校舎2階まで押し寄せた津波で大きな被害を受けた仙台市立荒浜小学校。震災当日、320人の児童や教職員、地域住民が避難した小学校での教訓等を視察してきました。一階部分は震災当日の状態のままで残された教室棟が大きな災害で会ったことが一目瞭然と解り、愕然としました。2階部分では被災直後の写真やパネル、模型等での地域の全体の被害を確認し、案内人の説明も聞きました。校長先生の判断で、校庭の児童が体育館ではなく、校舎に避難した経過と結果には大きな教訓だと思いました。地域の実態で一番感心したことは、塩害被害からわずか4年で復興できたことです。しかし、現在	

もなお、沿岸から 400m×10 k mの広い範囲が住宅建設不可になっているのは厳しい現実を考えさせられました。津波震災発生時の行動、その後の地域連携による復興に向けての取り組みについて大きな収穫を得ました。

(2) 塩竈市津波防災センター

2011 年(平成 26 年) 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸 500km にも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けました。塩竈市津波防災センターでは「東日本大震災」発災後の一週間に焦点をあて、そのとき何が起き、人々が何を求めたか、状況がどのように変化していったのかを記録、展示されている施設。市内津波浸水 3 地点動画(塩釜市壱番館庁舎, 塩釜市旧上水道部庁舎, 塩釜市保健センター) や、一日一日の被害状況、避難者数、水道や電気のいんふらの状況等が一目瞭然に解るようにパネル展示で整備されおりました。浦戸諸島を含む塩竈市とその地形と津波浸水区域が分かる立体模型や資料などがあり、今後の津波震災の場合での行動や災害復興時に前向きに捉えるためのいい視察研修ができました。

視察研修後記

＊うるま市議会では災害及び感染症対策行動宣言をし、議員が災害時行動 5 か条をもとに行動するよう決められました。今回の視察研修で学び得た知識を有効に地域において発揮できるよう頑張っていきたいと思います。

行政視察報告書

令和6年12月2日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊盛 サチ子

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ①宮城県仙台市（防災・減災対策について） 今回の視察は宮城県仙台市、東日本大震災から13年が経過。あらためて震災復旧、復興を考える研修であった。震災遺構として保存し公開されている荒浜小学校。4階建ての校舎は外見から写しだされているものと、校舎内の被害実態は想像を絶するもので、津波・地震による壊滅的な被害だった事を認識することができました。2007年3月11日、午前2時46分東北沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が沿岸ぞい9メートルの津波を確認。800世帯の集落は津波にのみこまれたという。地震発生時は、児童・生徒は下校の準備中で校舎内にいた。津波情報により地域住民も学校に避難し、320人がいた。時間の流れとともに津波で1階部分がのみこまれ、2階の教室は漂流物によって教室の中は床、壁、天井等無惨な状況となっていた。校長先生の指示の下、全員が屋上に避難し、誰一人命を落とすことなく無事救助された。不安と恐怖の中で判断力が求められる。校舎の建物が倒壊しなかった要因には、仙台市では宮城沖地震を想定し、建築基準の改正に基づき校舎の耐震補強工事を完了したことも、校舎が津波に耐えうる建物であったことが重要であったことをものがたっている。甚大な被害を受けたことで、この地域は人が住めない災害危険地域に指定された。被災

地は集団移転、住宅の自力再建は懸命な復興への努力が今も続いている。まちづくりの視点は暮らし、生業を支援する対策としてソフト面、ハード面での取組がある。学校周辺には、カフェや交流場所をつくり、人が訪れ、にぎわう地域に展換する仕組づくり、また、ハード面では災害の教訓を生かし、沿岸地域での10メートルに及ぶ道路の嵩上げ工事、護岸対策として他の地域に支障を来さないようにと2メートルの嵩上げの対策工事が取り組まれている。その他にも高速道路に避難できるよう様々な嵩上げ対策が講じられているのが特徴的である。市内には、45分で避難できることを目指し、13か所の津波避難所が設置されているとのこと。災害の教訓や初動対応は、いかに平時から行動をするか。学校では、子供たちは命が助かる行動について学んでいる。①津波が来たら一番高いところに逃げる。②避難場所はどこか家族と相談する。③家族で防災に対する話し合いをする。これを一番大切にしているとのこと。教育現場の取組強化が重要である。本市でも周辺が海に囲まれ、低地帯の地域が存在している。災害はいつ何時に来るか分からない。日頃から防災意識を高め、その地域の課題にあった取組、対応が求められる。

①宮城県塩竈市（防災・減災対策について）

塩竈市津波防災センターでは、津波発生時に甚大な被害を受け、その後、津波避難場所として建設された。防災機能を備え、一時避難場所となっている。当センターは、記憶を忘れないための震災関連資料が掲示されており、学びの場としても活用されている。東日本大震災の当時の状況と復旧・復興の取組について説明を受ける。塩竈市でも2011年3月11日に発生した地震・津波は、マグニチュード9.0の強い揺れが6分間程度続いた。津波は、市内に4メートルから最大6メートルの高さまで襲いかかった。被災状況は亡くなった方が65人、建物倒壊17棟、船舶223隻多くのものが被害を受けた。塩竈市は、発生時の際、被害状況を検証し、すぐに被害浸水区域に対応するためのハザードマップに避難経路整備の対応、地域防災計画にも反映させる取組を行った。また、災害発生時の取組として、体制本部組織の立ち上げにより、一丸となって体制を整える。その内容は(1)災害体制の確立、職員参集。(2)避難情報、災害情報の伝達。(3)避難所の開設、運営。(4)災害現物での応急対応。しかしそこには、特に職員の災害時に自主参集の基準の見直しが行われた事により、市外から多くの職員が参集するには、災害時の際まずは身の安全を図ることが第一とされ、リスク面を含めてマンパワー不足の課題が浮きぼりになっている。市民に対する避難情報、災害情報の伝達の強化が図られていることを実感した。防災無線78か所設置、それ以外にも緊急速報時の対応の手法としてスマホ、インターネット、テレビ、ホームページ、公式ライン、インスタグラム等アカウント対応、さらに各家庭への防災ラジオの配布、様々なデジタル活用により広く発信することで最小限に災害被害に備える周知方法に取り組んでいること。避難場所の開設・運営の現状は、住民にとって津波襲来直後の住居の確保、プライバシーの対応策、食料や生活物資の提供等、避難生活が長期化することを想定した上で、避難所19か所（小・中学校校舎、体育館）設置に対して、運営にあたっては、職員だけの対応に限界もあることから、避難所の運営委員会の組織化をしている。避難している人たちの努力の下、職員はサポート支援を行い、出来ることは皆の支援で対応を行っていくことなどの取組がある。防災に対する意識の観点から、児童・生徒の防災訓練の実施がある。市内小中学校参加、特に中学校では地域の人たちとの避難訓練を通しテントの組み立て、資材の扱い方、実際の体験を通し、実践に生かしていけるように役立つ学びの場を提供していることである。地域や学校での

防災体制づくりは重要不可欠であることを学んでいる。

③まとめ

まとめとして荒浜小学校、津波防災センターの視察を通し、東日本大災からの教訓は災害時、個人には限界がある。地域防災力の向上が不可欠。自助、交互、地域のコミュニティ構築を図ること。地域自主防災の体制強化は、一人一人が行動出来ることの重要性は、継続的な訓練がいかに災害に生かされるか。同時に情報の共有も重要不可欠であること。さらに被災の際には、最も身近な自治体が大きな役割を果たす事になる。各地で発生する災害、そして自らの地域で起こる、起こっている災害の検証から学ぶものも多くある。日ごろのつながり、ネットワークは、いざ災害時にも力を発揮する。行政と住民自治の支え合いのシステムの構築や災害対応研修などの必要性を実感しました。

行政視察報告書

令和 7 年 2 月 3 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会議員 国吉 亮

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 仙台市防災について 仙台市街図栗政策防災環境都市推進室では実際に災害にあった小学校を活用して災害の恐ろしさ、そして災害に備えることの大切さを肌で感じる事ができた。 特に津波の押し寄せる力で建物が破損したり変形した場所をみると、防災についてさらに対策をしていくべきだと感じた。また、実際に現場にいた校長先生が当時の状況を説明していた際に特に印象に残ったことが「通常は体育館に避難訓練をしているが、私の判断で学校の屋上に避難場所を変更した」この一瞬の判断で全員の命を救った。事前に様々なシチュエーションを想定し臨機応変に対応することの大切さを学んだ。 宮城県塩釜市防災減災について 石巻市の災害対応として災害対応体制を事前に確立し、災害情報と災害伝達を一元化することで素早い対応を実現できた。 また、事前に自治会と協力し避難所開設から運営まで素早く対応できた。さらには国や県様々な関係団体やボランティアの協力受け入れ態勢を事前準備し想定し大き

な協力体制を構築できた。

わがうるま市でも国や県との連携はもちろん姉妹都市な様々な機関との災害対応をすべきと感じた。

今回の研修で是非うるま市が行うべきことは、災害発生時にライフラインの断絶が起こった場合には姉妹都市などに事務的作業ができるような防災協定を締結すべきと感じた。

最後に研修を通して災害の恐ろしさを改めて感じるとともに、事前に備えることの大切さを切に感じた。今後は研修で学んだことを議会で提案し防災、減災に強いうるま市にしていきたい。以上所見とする。

行政視察報告書

令和 6 年 1 1 月 1 1 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 佐久田 悟

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和 6 年 1 0 月 2 9 日（火）～令和 6 年 1 0 月 3 1 日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 ②宮城県塩竈市
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計 2 人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2 人） 塩竈市危機管理課職員（1 人） 計 4 人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
○視察メモ	
震災遺構仙台市立荒浜小学校	
。来館者に防災・減災の意識を高めてもらうことを目的に、2011 年（平成 23 年）3 月 11 日の東日本大震災で被災した仙台市立荒浜小学校の校舎を震災遺構として保存・整備した施設である。被災の痕跡を鮮明に残す校舎と、被災直後の様子を示す展示等により、津波の威力や脅威を実感できる場として公開している。	
極力、校舎に手を加えず、校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真などから	

、荒浜小学校を襲った津波の脅威を知ることができる。津波の威力で折れ曲がったベランダの手すりや倒壊したコンクリート壁、津波の到達跡といった被災の痕跡を公開しているだけでなく、かつてこの荒浜地区に多くの人々の暮らしがあったことや、荒浜地区の歴史や文化、災害への備えも学ぶことができる。

私事ではあるが、2011年3月に発生した大震災から、1ヵ月半後に被害状況を実際に見たくて、仙台市に行った時に、この荒浜小学校も見に行っていた。校舎の中にガレキや土砂、何台もの車が折り重なっている光景を見てショックで言葉が出なかった印象を今でも鮮明に覚えている。

今回、13年ぶりに視察した日も色々な地域から来館者が多く訪れていた。

特に、小中学生、若い人達には写真・映像だけでなく、実際に被災した状況で残されたこのような校舎等を見学できることは、防災・減災に対する教育意識を高める施設として重要だと感じた。

うるま市の児童・生徒へも見学させたい施設である。

○視察メモ

塩竈市津波防災センター

。東日本大震災では、被災地で生き残った人々の多くも発災後の初期には水や食糧が手に入らず、ガスや電気といったライフラインも途絶え、寒さに震えながら一時的な「生命の危機」にさらされた。

その危機を脱するまでの数日間、被災者は自分や家族の命を守るだけで精一杯の日々を過ごした。

「塩竈市津波防災センター」では東日本大震災発災後の1週間に焦点をあて、そのとき何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのか、発生から7日間を中心に記録・展示されている。

当時の状況を写真・映像により振り返ることを通して、これからの災害に備えるこ

とが目的の施設である。

東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸500kmにも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けた。その惨状から被災地では各地の被災の実情や教訓を伝えていくための施設が多く整備されている。

近年、地震や大雨等の大規模な自然災害が頻発しているが、過去の災害の知識があれば、命を失わずに済んだケースも多く見受けられており、堤防などのハードの整備と合わせて、一人一人が意識を持って避難するなど適切な行動をとる「防災意識社会」の構築が求められている。

そのような観点においても、被災地にある震災・伝承施設を見ながら学ぶことが出来たのは、大きな意義があると感じた施設である。

行政視察報告書

令和 6 年 12 月 2 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 平良 一雄

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	総務委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月29日（火）～令和6年10月31日（木）
3. 視 察 先	①宮城県仙台市 震災遺構仙台市立荒浜小学校 ②宮城県塩竈市 塩竈市津波防災センター
4. 調査内容	①防災・減災対策について ②防災・減災対策について
5. 参 加 者	〔総務委員会〕 委 員 長 伊波 良明 副委員長 國場 正剛 委 員 伊波 洋 伊盛 サチ子 佐久田 悟 平良 一雄 池宮城 善伸 国吉 亮 事 務 局 森根 元気
6. 視察先 対応者	①仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 震災メモリアル事業担当課長、主任 計2人 ②塩竈市議会議長、塩竈市議会事務局職員（2人） 塩竈市危機管理課職員（1人） 計4人
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
<概要> ① 震災時津波により被災した荒浜小学校を訪れ、当時の状況と現在のまちづくりについて伺った。 ② 塩竈市津波防災センターにおいて、防災・減災について、資料をもとにレクチャーを受け、その後質疑応答、被災時から一週間の状況報告や完成した防潮堤の見学を行った。 <所見> ① 4階建ての荒浜小学校、周辺は以前の面影はなく、災害復興のための公園や賑わいを取り戻す仕掛けとしての店舗や施設、避難をするための人口の丘、そして津波によりほとんどなぎ倒されてしまった多くの松等の植栽が行われている。そして海岸線に沿うように歴史ある運河、貞山堀を挟み約800世帯、2,200人が暮らしていた集落が失われていることに驚きを感じた。さらに失われた集落は元には戻れない、集落ごと移住を余儀なくされている現実がある。 2011年3月11日に発生した東日本大震災において、児童や教職員、住民ら320	

人が避難し、2階まで津波が押し寄せた荒浜小学校。

津波による犠牲を再び出さないため、その校舎を震災遺構として公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えている。平日にもかかわらず、県内の小学生や外国人、一般の方も訪れる場所となっている。

震災当時の様子はSNS等で何度も映像を見てきたが、実際の現場に来るとその被害の甚大さに驚き、自然の驚異を思い知る。

現在、林野庁東北森林管理局主導による海岸防災林の再生や震災からの復興、教訓を未来へと「防災環境都市・仙台」の取組として10.2kmのかさ上げ道路建設や約9.2kmの海岸堤防、津波の浸水が想定される地域にタワー型施設を6か所、消防団施設が併設されたビル型施設を5か所、既存の小中学校の津波避難屋外階段を2カ所の合計13ヶ所の津波避難施設が整備されている。これらの取組はうるま市の低地帯における有効な防災対策になると感じた。

そして、印象に残った説明として、家族防災会議を行政が促しているということ、（１）とにかく高台に避難する（２）被災時の避難場所を決めておく常日頃から家族で確認し合うことこそ、防災・減災の原点であると感じた。

② 午後からは塩竈市の防災・減災について学んだ。

東北地方太平洋沖地震、聞きなれない名称であるが塩竈市では地震名を気象庁が定めたこの名称を使用していた。（ちなみに東日本大震災は政府が定めた名称）発生時間、午後2時46分18秒、マグニチュード9、最大震度、津波の到達時間午後4時02分、津波の高さ最大4m、塩竈市における主な概要である。上記の荒浜地区と同じく、津波が迫り船が何隻も堤防を越えていく映像は何度もみた。現在はその面影は微塵も感じないが人的被害として亡くなった市民65名、全壊家屋1,071棟、車約500台、船223隻の損壊など甚大な被害を受けた。

塩竈市津波防災センターにおいては当時の映像や地震から津波そして被災してから1週間、その後復興記録が掲げられ、訪れる人を迎えている。また、「塩竈市東日本大震災復旧・復興の記録 明日へ」がQRコードやホームページで検索でき閲覧することができる。施設のコンセプトは津波避難デッキと合わせ津波発生時の一時避難場所・浦戸復旧復興の前線拠点となっている。

塩竈市の災害対応として1. 災害体制の確立、職員参集、2. 避難情報、災害情報の伝達、3. 避難所の開設・運営、4. 災害現場での応急対応などとなっており、災害時の体制の確立、職員の参集基準が定められており、また、避難情報、災害情報の伝達など発生する可能性のある災害の違いはあれど、うるま市においても同様な取組がなされていると感じた。

特筆すべきは避難所開設・運営については災害時には速やかに避難所を開設するが、19ヶ所ある避難所ごとに1名ずつ班長と合計5名の職員が配備され、避難所の開設・運営を班長の指揮のもと行うことであり、総合防災訓練を実施する中で避難所開設訓練も行われ、また市民や児童生徒への防災意識の啓発、教育がなされていると感じた。

最後に塩竈市津波防災センターに面する湾内に設置された防潮堤、震災時より2m高くしており、その完成が最近だとお聞きし、これまでの復旧、復興の道のりの経過と時間を感じました。